

報道機関各位

岩手県立大学ソフトウェア情報学部・㈱富士通システムズ・イーストによる 「基礎教養入門」最終回の実施について

岩手県立大学ソフトウェア情報学部（以下、「県立大学」）では、株式会社富士通システムズ・イースト（以下、富士通システムズ・イースト）の協力の下、学生の「実践的問題解決能力」、「グループ作業によるコミュニケーション能力」の涵養をより一層強化するための講義「基礎教養入門」を実施しています。

本講義の 7 月 31 日の最終回を学生グループによる「最終発表会」として実施することとしましたので、ご案内いたします。

発表会では、予め選抜された 8 組の学生グループが今回の課題の成果について発表。教員及び富士通システムズ・イーストの役員等による審査により各賞を決定します。最優秀賞の学生グループには、富士通株式会社（東京）における成果報告会への参加が予定されています。また、富士通株式会社 東日本復興・新生支援本部 本部長 濱田真輔様他の学生に向けた講演も予定しています。

当日のご取材についてよろしくお願ひします。

記

1. 講義名：「基礎教養入門」

コミュニケーション能力、多様な価値観の理解、論理的思考の涵養を目的にグループワーク形式で行う全 15 回で構成。将来的には 1 年生から 3 年生の共同学習という形を目指す。

(1) 講義の詳細について：

別紙資料参照

(2) 企業との連携内容：

富士通システムズ・イースト派遣の講師と対象授業の講義内容の構想を共同で実施。授業では、問題解決の場面における現場のノウハウを学生が身につけることを目指すとともに、単なる技法の教授ではなく、事例を紹介しながら技術者としての心構えも伝える。また、演習時や成果発表会の際にコメントや講評を行う。

【対象授業：「問題分析（第 6 回）」、「実行計画の立て方（第 11 回）」、「プレゼンテーション（第 13 回）」、「成果発表会（第 15 回目）」】

2. 最終回「最終発表会」：

50 組程度から予め選定された 8 組の学生グループが今回の課題の成果について発表。教員及び富士通システムズ・イーストの役員等による審査により各賞を決定。最優秀賞としては富士通株式会社（東京）における成果報告会（展示施設見学、役員・若手社員等との交流含む）への参加を予定。

(1) 日 時：平成 25 年 7 月 31 日（水）13:00～15:55（学生発表 13:20～14:40、表彰式 14:50～、講評等 15:10～）

(2) 場 所：岩手県立大学講堂

<本件の問い合わせ先> 岩手県立大学ソフトウェア情報学部 事務室

電話 019-694-2500 Email: hakura@iwate-pu.ac.jp



〒020-0193 岩手県岩手郡滝沢村滝沢字巢子152-52 www.iwate-pu.ac.jp/

これは最も強固な形状といわれる「ハニカム構造」をモチーフに、県立大学と短大、大学院との結びつき、県民との強いつながりを表しています。
Copyright © 2011 IPU All Right Reserved.

<参考資料>

「基礎教養入門」の詳細について

1. 講義の特徴

「社会において一般に存在する、複数の利害関係者が関与する問題に対し、論理的分析と説得的提案により利害関係者の価値観を尊重しつつ納得してもらえる提案の創造を実現できるようにする」ことを目標と定め、1年前期に必修科目として実施。グループによる問題発見・解決のプロセスを、ケーススタディを通じて理解する。ケーススタディを実践する上で必要なマインド、考え方、知識を、企業の第一線で活躍中の外部講師による講義を通じて身につけるという講義スタイルをとる。ソフトウェア情報学部における就業力育成のための授業科目群のひとつ（図1をご参照ください）。

2. 講義のねらい

- (ア) 問題解決の基本的な流れを理解する
- (イ) 論理的な分析と説得的な発表ができるようになる
- (ウ) グループで作業し、グループに貢献できるようになる

3. 学習目標

- (ア) ケーススタディを通じて問題解決プロセスを理解
- (イ) 問題解決の基本技術を習得する
- (ウ) 論理的な分析と説得的な発表ができるようになる
- (エ) グループワークで自らの役割を意識した行動をとることができるようになる

4. 講義日程

| 回数 | 日程 | 内容 | 実施単位 |
|-------|----------|------------------------|--------|
| 01 | 4月17日 | 全体ガイダンス、個人特性分析 | 全体 |
| 02 | 4月24日 | オリエンテーション | 研究室 |
| 03 | 5月01日 | 全学共通講義(1) | 全学 |
| 04 | 5月08日 | 課題説明、問題把握(1/2) | 研究室 |
| 05 | 5月15日 | 全学共通講義(2)、問題把握(2/2) | 全学、研究室 |
| 06 | 5月22日 | 問題分析(全体)、問題発見・分析(1/2) | 全体 |
| 07 | 5月29日 | 問題発見・分析(2/2) | 研究室 |
| 08 | 6月05日 | 中間発表会、ふりかえり | 研究室 |
| 09-10 | 6月12・26日 | 解決案決定 | 研究室 |
| 11 | 7月03日 | 実行計画作成(全体)、実行計画作成(1/2) | 全体 |
| 12 | 7月10日 | 実行計画作成(2/2) | 研究室 |
| 13 | 7月17日 | プレゼン(全)、プレゼン作成(1/2) | 全体 |
| 14 | 7月24日 | プレゼン作成(2/2) | 研究室 |
| 15 | 7月31日 | 最終発表会・表彰(全体)、ふりかえり | 全体、研究室 |

5. ケーススタディ課題のさわり

2013年5月現在、A家は父(55)・母(45)・長男(21)・長女(11)の4人家族でS町の一軒家に住んでいる。父方の母である祖母(85)も同町内に一軒家を構えているが、高齢による膝の痛みのため1年前から週2回通院をして治療している。通院に際しては、祖母は脚が不自由なこともあり、母が付き添いをしている。ところが、最近母が過労で倒れた・・・様々な、事情を抱えるA家のメンバーたち、彼らはどうすれば良いのだろうか。我々の日常生活で起こりうる解が一意に定まらない問題。学生はこの問題状況下で、A家のお父さんを学生の恩人と仮定し、A家のお父さんから相談を受け、この問題を解決したいと考えることを求められる。その上で、特定の期限内に、家族全員の価値観を尊重したいお父さんに改善案を提案することが求められる。

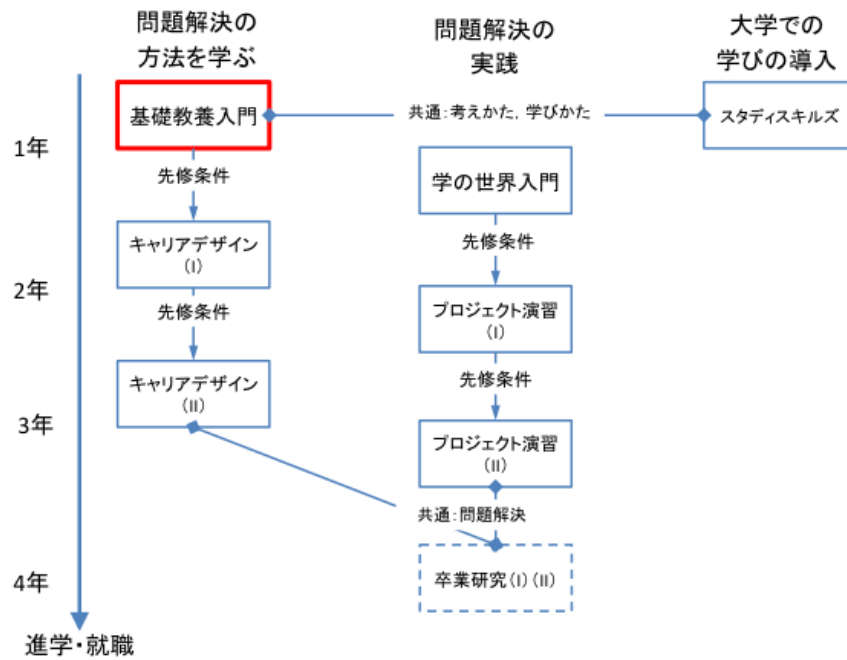


図1 本学部の就業力育成のための授業科目群

※ プロジェクト演習は、平成 19 年度より開講されている、全国でも珍しい 3 学年混成型の問題発見・提案型の演習。初年次教育の取り組みとして第三者機関に高い評価を受けた

(http://www.kawaijuku.jp/research/pdf/kawai_1009.pdf 参照)。

※ スタディスキルズは、大学はもとより、人生における「学び」を自主的・継続的に行うための基礎を身に付ける授業として平成 25 年度より開講されている科目。授業の様子は、

<http://www.facebook.com/ipu.softy> にて公開されている。